

第9回「話してみよう韓国語」青森大会 大会要項

1 趣 旨

韓国語を学ぶ方が、韓国語を学ぶ楽しさを実感し、一層学ぶ意欲を持つことができるよう、韓国語の学習成果を発表する機会とするため本大会を行います。

また、これを機会に、友だちや家族の皆さんにも気軽にご来場いただき、韓国の文化に関心を持つ人の輪がますます広がるよう願うものです。

本大会は、青森県内の韓国語のサークルなどで構成される「話してみよう韓国語」青森(北東北)大会の実行委員会と駐日韓国大使館 韓国文化院が、弘前大学 人文学部との共催で実施いたします。

2 募集の概要と応募方法

(1) 募集の概要

コンテストの部と自由発表の部の参加者を募集します。

コンテストの部は、中高生スキット部門と指定スキット部門、スピーチ部門があり、予選を行います。部門ごとに参加資格等が異なりますので、ご注意下さい。

自由発表の部は、サムルノリなどの伝統芸能、寸劇、韓国の伝統歌謡などの発表です。

(2) 応募方法

申込書とテープなど一式を第9回「話してみよう韓国語」青森(北東北)大会の実行委員会事務局まで必ず郵送で提出してください。

① 応募締切 2013年10月22日(火) 必着

② 申込先：〒038-0058 青森市羽白字沢田29-96

「話してみよう韓国語」青森(北東北)大会 実行委員会事務局

③ 一度提出された書類等は一切返却できませんので、ご了承ください。

(3) 問合せ先 「話してみよう韓国語」青森(北東北)大会 実行委員会事務局

(特定非営利活動法人 あおもりコリアネット内)

TEL 080-6050-6700 (9:00~18:30 土日祝休) 担当：三上

3 予選と本選

(1) 予選

2013年11月初旬に予選審査を行い、結果を通知します。

(2) 本選

期日：2013年12月15日(日)午後1時(予定)

(時間は予定であり、変更することがあります。)

会場：弘前大学 創立50周年記念会館 みちのくホール(青森県弘前市文京町1番地)

TEL. 0172-36-2111(代表)

(注1) 本選参加者の交通費補助

最寄りの地方大会に参加することを基本とします。コンテスト部門の本選出場者の交通費が1人往復5,000円を超える場合、1人10,000円を限度に助成します。参加者本人のみを対象とします。所属学校や他の機関から補助を受けられる方は対象となりません。

(注2) 本選の発表順は、当日、くじで決めます。

4 応募要項

<コンテストの部>

共通参加資格

- (1) 韓国語を母語としない日本国内の学校に在籍する中学生以上の者。国籍は問いません。
- (2) 応募時点から過去1年以内に、本大会を含む他の韓国語コンテスト等の本選で最上位（最優秀賞、優勝、大賞など）を受賞したことがない者。過去の指定スキット部門最優秀賞受賞者は、本大会のスピーチ部門に限り応募できます。
- (3) 予選（1次審査）で各部門の参加資格を超える語学力を持っていると判断された方は、本選（2次審査）に進めないことがあります。
- (4) 複数部門のお申し込みはできません。

中高生スキット部門

参加資格

- (1) 韓国語あるいは、韓国語を常用する地域における生活経験が合算して1カ月以内の中高生。
- (2) 韓国語の学習歴が2年以内で本選（2次審査）までの学校等での学習時間が100時間を目安とする初級学習者。韓国語能力試験1級未満もしくはハングル検定5級程度の中高生が対象。
- (3) 本選（2次審査）時に、満20歳未満の者。
- (4) 独習している中高生は、学習歴が(2)に準ずる

概要

- (1) 制限時間3分。
- (2) 指定の台本を暗記し、2人1組で韓国語の発音や表現力を競います。1人での参加はできません。申し込み後に参加者を交替することはできません。
- (3) 本文自体を変えることはできませんが、文末を変えたり、文章を一部追加することが出来ます。（全体の3分の1程度まで）。また、台本を読み上げることはできません。
- (4) 服装・メイクは自由ですが、小道具は身の回り品程度とします。
- (5) 事前に、小道具の内容をお知らせください。BGMを流すこともできます。

提出物

- (1) 参加申込書（別紙3）
- (2) 2名分を、同一の封筒に入れてお申し込みください。
- (3) スキット台本のセリフを録音したもの（テープ、CD-R:MP3形式のいずれか）。
- (4) アドリブを追加した場合、追加変更した部分がわかるような台本（指定台本をコピーして変更部分を書き入れるなど）を添付してください。変更部分のみの原稿は不可。
- (5) 使用する予定の小道具をお知らせください。

指定スキット部門

参加資格

- (1) 中高生の部の学習歴を超える中高生。
- (2) 大学生・一般は応募時に韓国語学習歴が2年以内で本選（2次審査）までの学習時間が100時間を目安とする初級学習者。大学生の場合、日本国内の学校に在籍する者。
- (3) 韓国語能力試験初級（1～2級）、ハングル能力検定試験4～5級程度の学習者。
- (4) 韓国あるいは韓国語を常用する地域における生活経験が合算して1カ月以内の者。
- (5) 独習者は上の要件に準じます。

概要

- (1) 制限時間3分。
- (2) 指定台本を暗記し（台本を読み上げることは出ません）、2人1組で韓国語の発音や表現力を競います。1人での参加はできません。申し込み後に参加者を交替することはできません。
- (3) 本文自体を変えることはできませんが、文末を変えたり、文章を一部追加することが出来ます。（本文全体の3分の1程度まで）。
- (4) 自由創作部分は制限時間内であれば、特に制限はありません
- (5) 服装・メイクは自由ですが、小道具は身の回り品程度とします。事前に、小道具の内容をお知らせください。BGMを流すこともできます。

提出物

- (1) 参加申込書（別紙1）
- (2) 2名分を、同一の封筒に入れてお申し込みください。
- (3) スキット台本のセリフを録音したもの（テープ、CD-R:MP3形式のいずれか）。
- (4) アドリブを追加した場合、追加変更した部分がわかるような台本（指定台本をコピーして変更部分を書き入れるなど）を添付してください。変更部分のみの原稿は不可。
- (5) 使用する予定の小道具をお知らせください。

スピーチ部門

参加資格

- (1) 韓国語の母語話者でない者。
- (2) 中高生～大学生等は日本国内の学校に在籍する者。
- (3) 韓国あるいは韓国語を常用する地域等での生活体験が合算して1年以内の者。

概要

- (1) 制限時間5分以内。1人で参加します。
- (2) 発表後に審査員が韓国語で質問します。それに対し韓国語で答えて頂きます。
- (3) A, Bいずれかのテーマについて作文し、それに基づいて発表します。

テーマ：A 「韓国の社会や文化について」 B 「韓国との交流促進について」

提出物

- (1) 参加申込書（別紙1）
- (2) スピーチの原稿と日本語訳をプリントアウトしたもの。
- (3) スピーチの原稿と日本語訳原稿の入ったCD-R。
- (4) スピーチを録音したもの（CD-R:MP-3形式）。
- (5) 募集締め切り後にスピーチの内容を変更することはできません。

<自由発表の部>

参加資格

韓国との交流促進に資する発表であり、かつ本大会を盛り上げる内容であれば、どなたでも応募できます。発表はコンテストの部の審査時間中に行います。

概要

- (1) 制限時間5分。

提出物

- (1) 参加申込書（別紙2）
- (2) 発表の内容を確認できる録音・録画したもの。

※ 公平な審査のために次の点を必ずお守りください

- ① 音媒体には発表内容以外の事項（自己紹介など）は入れないでください。減点の対象になります。録音媒体にお名前をお書きください。
- ② 1つのテープ・CD-R等に複数組の録音を入れしないでください(1組1つずつを厳守願います)。
- ③ 録音される際は、録音時のボリュームを大きめにし、送付する前に必ず一般の再生機器で再生して音質等を確認してください。録音されていなかったり、ボリュームが小さくて聞きづらい場合、予選（1次審査）の際、不利になることがあります。

5 審査基準 （ ）内の数字は100点中の配点です

<中高生スキット部門・指定スキット部門>

発音（50）—正確さ、イントネーション、聞き取りやすさ

総合表現力（40）—話す速度、強弱、身振りや手振り、感情表現など、アドリブ含む

暗唱（10）—原稿を見ないで発表

<スピーチ部門>

- 発音・表現 (40) 正確さ、イントネーション、聞き取り、話す速度、強弱、感情表現など
内容・構成 (40) 内容、語彙的な問題、誤用、起承転結など
暗誦 (10) 原稿を見ないで発表
質疑応答 (10)

※発音・イントネーション等の基準について：

本大会では、ソウルを標準語とする韓国語を基準にして審査を行います。

※制限時間について

制限時間を超えた場合は、減点の対象となります。

6 審査員

(1) コンテストの部

- 審査員長 岩手県立大学教授 姜 奉植
審査員 青森公立大学教授 丁 圏鎮
審査員 青森大学准教授 石塚ゆかり

(2) 自由発表の部

県内韓国国際交流員、県内在住韓国人留学生等

7 賞（予定：変更されることがありますので予めご承知おきください。）

(1) コンテストの部

	中高生スキット部門	指定スキット部門	スピーチ部門
最優秀賞	賞状 高校生はクムホ・アジアナ杯 本選(2014.3.8)出場権(高校 生の最上位組) ※注3	賞状 旅行券	賞状 旅行券
優秀賞	各部門から一組 賞状、タブレット型パソコン		
奨励賞	各部門から一組 賞状・電子ブック		
努力賞	入賞者以外へ図書カード		

(注1) その他、全体から一組に特別賞があります。

(注2) 出場者のレベルにより最優秀賞等が空席となることがあります。

(注3) **中高生スキット部門の総応募数が5組以上の場合のみ授与。**

- ① 東京までの往復交通費+都内ホテル1泊(朝食付、相部屋)が合わせて提供されます。中学生が最優秀賞を受賞した場合、高校生の最上位組が出場権を獲得します。また、高校生の最優秀者が辞退した場合は、次点受賞者が出場できるようになります。

- ② 総応募数が 5 組未満の場合は、青森大会でクムホ・アジアナ杯出場権を得ることはできません。最優優秀賞の高校生の組については、実行委員会からクムホ・アジアナ杯「話してみよう韓国語」高校生大会事務局へ応募書類と応募音源を送ります。同事務局で行う音源審査が行われ、音源応募全体から数組が全国大会への進出となります。

(2) 自由発表の部

韓国の文化への理解を深めたり、本大会を盛り上げた方に賞を差し上げます。

賞は、韓国に関係するものです。

8 主催・後援・協賛団体

主催： 第9回「話してみよう韓国語」青森(北東北)大会 実行委員会、
駐日韓国大使館 韓国文化院

共催： 弘前大学 人文学部、駐日韓国文化院 世宗学堂

協賛： 青森県日韓親善協会連合会、青森空港国際化促進協議会（予定）、他

協力： 在日本韓国民団青森地方本部、青森地区日韓親善協会

後援： 弘前市

特別協賛： ASIANA AIRLINES

青森県国際交流協会助成事業

第 9 回「話してみよう韓国語」青森(北東北)大会 一般・大学生部門参加申込書

参加部門	指定スキット部門	スピーチ部門	
A あなたについて (正確に記入してください)			
1 氏名(漢字&かな)	(姓)漢字:	かな:	(名)漢字: かな:
2 氏名(ハングル)	(姓)	(名)	
3 自宅の住所 (〒も記入)	〒		
4 電話・ファックス	Tel.	Fax.	携帯電話
5 職業または学年	職業	学 年	(2014年3月時点) 年
6 生年月日(西暦)	年 月 日	性別(下線または○)	男性 女性
B 韓国語の学習歴について (該当するものに下線を引くか、○を付けてください いくつでも可。)			
1 どれくらい学びましたか: 学習期間	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことがない(ほとんどできない) → B-2, -3 はスキップ ・3ヵ月未満 ・3ヵ月以上、6ヵ月未満 ・6ヵ月以上、1年未満 ・1年以上 		
2 どんなところで学びましたか: 学習機関	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で1年以上前に学んだ ・大学で学んでいる ・語学学校、カルチャーセンター、市民講座() ・1人で勉強 ・親から習った ・韓国に住んでいた→何年間(年) ・その他 →記入() ・NHKハングル講座: テレビ ・NHKハングル講座: ラジオ 		
3 きっかけは何ですか: 学習動機	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語に興味があるから ・ハングルに興味があったから ・Kポップが好きだから ・その他 →記入() ・韓国映画が好きだから ・韓国人の友だちがいるから 		
C 本大会について (該当するものに下線を引くか、○を付けてください)			
1 大会のことをどのように知りましたか: 媒体	<ul style="list-style-type: none"> ・学校(講座)の先生が教えてくれた ・友だちが教えてくれた ・大会のポスターを見た →どこで() ・大会のちらしを見た →どこで() ・ウェブサイトで検索した →どのサイトで() ・その他 →記入() ・親が教えてくれた ・広告を見た 		
2 なぜ参加したいと思いましたか: 参加動機	<ul style="list-style-type: none"> ・入賞すれば賞品がもらえるから ・韓国語の実力を確かめたかったから ・友だちと一緒に出たかったから ・韓国のことをもっと知りたいから ・その他 →記入() ・先生が勧めるから ・親が勧めるから ・韓国人の友だちを作りたい 		
D パートナーがいる場合は下記もご記入ください			
パートナー名:		パートナーとの関係:	
台本であなたが演じる役:		パートナーとあなたとどちらが代表ですか? :	
E 指導講師	氏名	※主催者使用欄	

※必ず応募者 1 名につき 1 枚作成し、スキット部門の申し込みは 2 名分 (2 枚) をまとめてお送りください。

(注) 韓国語学習歴の記載が虚偽と認められる場合は、参加又は受賞取消となります。

第9回「話してみよう韓国語」青森(北東北)大会 **参加申込書**

自由発表の部用

職業等	学生（学校名及び学年： _____）		
	社会人（職種： _____）		
	その他（ _____）		
連絡先	ふりがな		
	グループ名 及び 代表者名		
	住所 〒 _____	_____	
	TEL _____（ _____）	FAX _____（ _____）	
	携 帯 _____		
	e-mail _____		
パフォーマンス タイトル			
参加パフォーマンス 内容	<p>※プログラムへ掲載しますので具体的にご記入ください。</p> <p style="text-align: right;">参加人数 _____ 人</p>		
<p>※歌の場合、著作権の処理が必要となることがあります。</p> <p>本選参加の場合、必ず自分で申請等を行い処理していただく必要があります。</p>			
指導講師	※フルネームでお願いします		
韓国語を学んでいる場合は、下記にご記載ください。			
韓国語学習先		韓国語学習歴	年 月
指導講師	※フルネームでお願いします		
【主催者使用欄】			

「話してみよう韓国語」2013～14 中高生部門参加申込書

参加部門	指定スキット部門		
A あなたについて	(正確に記入してください)		
1 氏名(漢字かな)	(姓)	(名)	
2 氏名(ローマ字)	(姓)	(名)	
3 自宅の住所 (〒も記入)	〒		
4 電話・ファックス	Tel.	Fax.	携帯電話
5 学校名と学年	学年(2014年3月時点) 年		
6 生年月日(西暦)	年 月 日	性別(下線または○)	男性 女性
B 韓国語の学習歴について	(該当するものに下線を引くか、○を付けてください いくつでも可。)		
1 どれくらい学びましたか:学習期間	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことがない(ほとんどできない) → B-2, -3 はスキップ ・3ヵ月未満 ・3ヵ月以上、6ヵ月未満 ・6ヵ月以上、1年未満 ・1年以上 		
2 どんどこで学びましたか:学習機関	<ul style="list-style-type: none"> ・高校で1年以上前に学んだ ・高校で学んでいる ・語学学校、カルチャーセンター、市民講座 ・1人で勉強 ・親から習った ・その他 → 記入() ・NHK ハングル講座:テレビ ・NHK ハングル講座:ラジオ ・韓国に住んでいた→何年間(年) 		
3 きっかけは何ですか:学習動機	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に授業があったから ・外国語に興味があるから ・ハングルに興味があったから ・英語が嫌いだから ・その他 → 記入() ・K ポップが好きだから ・韓国映画が好きだから ・韓国人の友だちがいるから ・父親か母親が韓国人だから 		
C 本大会について	(該当するものに下線を引くか、○を付けてください)		
1 大会のことをどのように知りましたか:媒体	<ul style="list-style-type: none"> ・学校(講座)の先生が教えてくれた ・友だちが教えてくれた ・大会のポスターを見た →どこで() ・大会のちらしを見た →どこで() ・ウェブサイトで検索した →どのサイトで() ・その他 → 記入() ・親が教えてくれた ・広告を見た 		
2 なぜ参加したいと思いましたか:参加動機	<ul style="list-style-type: none"> ・入賞すれば賞品がもらえるから ・韓国語の実力を確かめたかったから ・友だちと一緒に出たかったから ・韓国のことをもっと知りたいから ・その他 → 記入() ・先生が勧めるから ・親が勧めるから ・韓国人の友だちを作りたい 		
D パートナーについて	(必ず記入してください)		
パートナー	氏名	自分の配役: 代表: 自分	パートナーの配役: パートナー
E 指導教員 または担当教員	氏名	担当 教科	

必ず応募者1名につき1枚作成し、スキット部門の申し込みは2名分(2枚)をまとめてお送りください。
私は本大会の募集要項を十分に理解し、応募要件を満たしていることを確約いたします。

署名:

印